



2024年5月9日

各 位

会 社 名 ローランド ディー. ジー. 株式会社
代表者名 代表取締役 社長執行役員 田部 耕平
(コード番号 6789 東証プライム)
問合せ先 常務執行役員コーポレート本部長 小川 和宏
(TEL. 053 - 484 - 1400)

ブラザー工業株式会社との協議の進捗状況に関するお知らせ

当社は、2024年3月13日にブラザー工業株式会社（以下「ブラザー工業」といいます。）より当社普通株式（以下「当社株式」といいます。）に対する公開買付け（以下「ブラザー公開買付け」といいます。）の開始予定に関する公表がなされたことを受け、ブラザー工業との間で、当社執行部（当社の執行サイドで本件の検討・交渉を主導している当社常務執行役員を指します。以下同じです。）・取締役会（当社の代表取締役 社長執行役員である田部耕平及び社外取締役のブライアン・K・ヘイウッド氏を除きます。以下同じです。）及び当社の特別委員会（以下「本特別委員会」といいます。）を交え、誠実に協議を継続してまいりました。

2024年5月7日付「ブラザー工業株式会社との協議の進捗状況に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、当社としては、同日時点においてブラザー公開買付けによるシナジーの発生の実現性やディスシナジー発生 の蓋然性に対する懸念が払拭できておらず、それらの懸念及びこれらの背景・理由等を含めて詳細に説明し、両社の間で協議することが極めて重要と考え、ブラザー工業に対して面談の設定を依頼しておりますが、当該依頼に対するブラザー工業からの回答はなく、本日現在において未だブラザー工業より当該懸念を払拭できるだけの回答を得られていない状況にあります。ブラザー工業の本日付「ローランド ディー. ジー. 株式会社株式（証券コード：6789）に対する公開買付け実施に向けた進捗状況のお知らせ」に記載のとおり、ブラザー工業は、本日、当社経営陣が事実誤認に基づく主張又は具体的な根拠を欠く主張を繰り返していると主張した上で、そのような経営陣との間で当社の企業価値を最大限向上するために必要不可欠な信頼関係を構築することは今後見込めないとの判断のもと、ブラザー公開買付けにおける買付け等の価格を5,200円から引き上げないことを決定した旨の公表がなされております。

当社は、ブラザー工業に対して、これまで繰り返しブラザー公開買付けによるシナジー発生の実現性及びディスシナジーの発生 の蓋然性に対する懸念を具体的に説明し、また、当社の製品に搭載する基幹部品であるプリンターヘッドの大多数について供給を受けている事業会社（以下「主要サプライヤーA」といいます。）への確認結果や専門家による検証結果等、本件の事実関係を前提とする客観的かつ具体的な根拠も示しました。また、当社からブラザー工業に対して、再三にわたり当該懸念を払拭できる材料があればその根拠を示すよう要請してきましたが、ブラザー工業からは合理的な根拠なく「ディスシナジーは発生しないと考える」との回答が繰り返されるばかりでした。

とりわけ、当社が2024年4月26日付の「XYZ株式会社による当社の普通株式に対する公開買付けに関する意見の変更についてのお知らせ」にて公表しましたように、当社において、主要サプライヤーAに対し、当社がブラザー工業の傘下に入ることとなった場合の今後の取引等に関する考えを確認し、2024年4月11日に、主要サプライヤーAより、正式に、重要パートナーとしての価格の提示や、最先端のプリンターヘッドの供給、当社の製品開発について早期段階からの密接な連携及び製品発売後の品質サポートを含めた密接な協働や、技術支援などに関する取引関係の見直し検討は不可避である旨の回答（以下「4月11日付サプライヤーA回

答」といいます。)を受領いたしました。かかる確認結果は、当社がブラザー工業に対して、再三説明していたディスシナジーの発生 の蓋然性に対する懸念は合理的な根拠のあるものであること示すものでした。

これを受け、当社は、2024年4月16日に、ブラザー工業との面談を行い、4月11日付サプライヤーA回答の内容を具体的に伝達するとともに、ディスシナジー発生 の蓋然性に対する懸念を詳細に説明いたしました が、当該面談において、ブラザー工業は、主要サプライヤーAとの取引に関し、主要サプライヤーAは取引関係の見直し自体ではなく見直しの「検討」を行うと言っているに過ぎない等の不合理な主張を行い、「ディスシナジーは発生しないと考える」との回答が繰り返されるばかりでした。

さらに、ブラザー工業において、4月11日付サプライヤーA回答の趣旨等を適切に理解することなく、かかる不合理な主張を繰り返していたことについて、大変遺憾ではございましたが、当社は、主要サプライヤーAに対して、直接確認し、同社より、正式に、ブラザー公開買付けによって当社がブラザー工業の傘下に入ることとなった場合には、重要パートナーとしての価格の提示や、最先端のプリンターヘッドの供給、当社の製品開発について早期段階からの密接な連携及び製品発売後の品質サポートを含めた密接な協働や技術支援などに関する取引関係の見直し検討は不可避である旨の回答(以下「4月25日付サプライヤーA回答」といいます。)を受領しました。

これを受けて、このことから生じる深刻なディスシナジーについて正しくブラザー工業に理解してもらうために繰り返し誠実な協議を申し入れましたが、それにもかかわらず、ブラザー工業からは何ら連絡がなく、また、ブラザー工業による本日付けの公表において、4月11日付サプライヤーA回答や4月25日付サプライヤーA回答を踏まえることなく、「ディスシナジーが発生する可能性を口実にして」や「ディスシナジーが発生する蓋然性は低いと考えております」等の主張を未だに繰り返されております。

ブラザー工業による本日付けの公表は、当社からの継続協議の依頼に対する返答及び当社の各懸念に対する回答(上記の主要サプライヤーAの回答にもかかわらず何故ディスシナジーが発生しないと考えるのかについての説明を含みます。)が一切無い中で行われたものであり、ブラザー工業の当社に対する「事実誤認に基づく主張又は具体的な根拠を欠く主張を繰り返している」といった主張こそ事実関係に反しているといえ、これまでブラザー工業と誠実な協議を続けるべく努力してきた当社としては大変残念かつ遺憾に思っております。

当社執行部・取締役会及び本特別委員会としては、経済産業省の「企業買収における行動指針」の趣旨に沿って当社の企業価値及び株主共同の利益の観点から、ブラザー公開買付け及びXYZ株式会社による当社株式に対する公開買付け(以下「本公開買付け」といいます。)の双方について、公平かつ真摯に検討を行っております。ブラザー工業による本日付けの公表における記載は、当社や当社役職員の名誉や信用を棄損するおそれがあり、当社としては、必要に応じて適切な措置を検討してまいりたいと存じます。

なお、当社は、2024年4月26日付「XYZ株式会社による当社の普通株式に対する公開買付けに関する意見の変更についてのお知らせ」に記載のとおり、本公開買付けに賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様に対して、本公開買付けへの応募を推奨することを決議しておりますが、現時点で本公開買付けに関する意見の変更は予定しておりません。

以上